

分類：臨床医学VI(CC2)

授業科目名：消化器外科学（外科学1） 臨床実習（BSL2:Gastroenterological Surgery） - 消化器外科臨床実習2 -

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-08

1. 主任教員

打波宇（准教授、消化器外科、6125、オフィスアワー：9:00-17:00）

2. 担当教員

打波宇（准教授、消化器外科、6125、オフィスアワー：9:00-17:00）

飯田正毅（准教授、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

渡辺剛（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

阿部ゆき（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

中川康彦（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 授業の概要及びねらい

（1）診療チームの一員として病棟入院中の患者さんへの診療を通して、将来どのような分野の医師にも必要な外科領域、特に消化器外科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定などの実践力を習得する。

（2）消化器外科医のイメージを獲得する。

1）病棟診療

各学生は診療チームに2週間配属され、指導医のもとで数人の入院患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、毎日、担当患者さんの回診を行い、医療面接、身体診察、検査・治療方針の提案・議論、診療録への記載、カンファランスなどのプレゼンテーションなど、診療チームの一員として基本的な診療を学ぶ。担当する患者さんの検査や手術に参加し、実際どのように診療が行われているのかを学ぶ。

2. 学修目標

1）症候・病態 臨床推論

（1）黄疸、（2）腹痛、（3）悪心・嘔吐、（4）食思不振、（5）便秘・下痢、（6）腹部膨隆・膨満・腫瘍

2）基本的臨床手技

（1）体位変換、移送ができる

（2）胃管の挿入と抜去ができる

（3）尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる

（4）全身麻酔を見学し、介助できる

（5）診療録を作成する

3）検査手技

（1）腹部の超音波検査を実施できる

4）外科手技

（1）無菌操作を実施できる

（2）手術や手技のために手洗いができる

（3）手術室におけるガウンテクニックができる

（4）基本的な縫合と抜糸ができる

- (5) 創の消毒やガーゼ交換ができる
- (6) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する

5) 救命処置

- (1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる
- (2) 一次救命処置を実施できる
- (3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する

6) シミュレーション教育

- (1) シナリオなどを用いたトレーニングを通して、状況判断、意思決定能力を獲得する
- (2) チームトレーニングによって、チーム医療の実践能力を高める
- (3) 振り返りによって自己省察能力を高める

7) 医療行動科学、医療倫理、医療安全

- (1) 各種検査や手術のインフォームドコンセント
- (2) 患者や家族への対応
- (3) プロフェッショナリズム
- (4) 各種検査や手術の安全管理

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

各担当教官と相談すること

5. 成績評価の方法

態度（実習中の学習態度）

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

クリニカルクラークシップガイドの必修事項を確認してくること
毎日、振り返りを行い、疑問点は学習すること

消化器外科学（外科学1） 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回 副題 担当	月曜日 [8:30-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	8:30- オリエンテーション 南臨床棟 3階医局（第1週のみ） 病棟回診・手術への参加
第 2 回 副題 担当	火曜日 [8:30-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	病棟回診・手術・検査への参加 18:00- 外来症例カンファランス（自由参加） 19:00- 消化器合同カンファランス（自由参加）
第 3 回 副題 担当	水曜日 [8:30-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	病棟回診・手術への参加
第 4 回 副題 担当	木曜日 [8:00-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	8:00- 病棟カンファランス、術前検討会 病棟回診・検査への参加
第 5 回 副題 担当	金曜日 [8:30-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	病棟回診・手術への参加